明日の空へ　SDGs―JALの取り組み―／第98回

世界へ広がる俳句の輪

世界こどもハイクコンテスト

Vedno hitreje tečem　Noge so že v zraku　Saj jaz letim

どんどん走ると　足が浮いて　飛んでるよ

Andrej Korošec（8歳・スロベニア）

俳句を世界へ

近年、俳句という日本文化が再注目を浴びています。国内におけるテレビ番組などでの人気もさることながら、写真と三行詩を組み合わせた表現が、「写真俳句」として世界中で人気を博しています。俳人・正岡子規ゆかりの松山市では、10回目の国際写真俳句コンテストが今年も開催されました。

そうした動きのもっと前、東京オリンピックが開催された1964年、日本の文化を世界に広げようと、日本航空がアメリカのラジオ番組でハイクコンテストを呼びかけ、全米から4万通を超える投稿がありました。その後も不定期に開催されていたこのコンテストは、1990年から公益財団法人JAL財団（当時、日航財団）に引き継がれ「世界こどもハイクコンテスト」という名称で2年に一度、テーマを決めて、世界中の子どもたちからイラストとハイク（三行詩）を一体化させた作品を募集しています。

イラストとハイク

もともと俳句は限られた字数の言葉だけで表現し、絵を伴うものではありませんが、子どもたちに豊かな感性を育んでほしいという財団の願いから、ハイクを詠んだときの目の前の光景や記憶にある情景を、子どもたち自らの手で描き留めてもらうことにしました。

子どもたちの作品には、育った地域の特色や考え方が反映されます。絵と詩を一体化させることで、異なる文化を持つ人々にも、より理解してもらいやすくなります。1990年から昨年まで、59の国と地域から、72万を超える作品が寄せられました。

優秀作品は、ハイクの日本語訳、英語訳が付記され、『地球歳時記』という絵本にまとめられています。2021年にはスポーツを題材にした16巻目が発刊されました。

ハイクを通した相互理解

JAL財団とJALグループは、世界中の子どもたちがハイクを通して、日本や日本文化に興味を持つだけでなく、お互いの感動を分かち合い、相互理解を深められることを願って、ハイクの作り方パンフレットを18の言語で作成し、JAL財団のWebサイトにも掲載しています。

コロナ禍で、日本や他国・地域の文化に触れる機会が少なくなりがちです。しかしこんなときこそ、各国・地域の違いを知って認め合い、国際協力を促進する取り組みがますます重要になるのではないでしょうか。

ハイクを通したつながりが、豊かで持続可能な国際社会を実現する第一歩であると信じて、今年も「世界こどもハイクコンテスト」を開催いたします。ご応募お待ちしています。Ⓢ

This morning　I wake up with the song　Of a robin

こまどりの　さえずり聞いて　起きる朝

平原 喜一（14歳・イギリス）

өвс ногоо тэгширч　мал амьтан тарга авахад　малчы сэтгэл тэнийнэ

草原が茂り　家畜が肥えるとき　遊牧民の心が安らぐ

Солонго Б（14歳・モンゴル）

＊植物に人を乗せてひっぱる伝統的な遊び

Tarik upih ku　Bersorak dengan kuat　Riang selalu

ウピをひっぱる＊　大きな声援　いつも楽しいな

Loke Yu Ern（13歳・マレーシア）

Pistang makulay　Ang kasiyahang taglay　Walang kapantay

色があふれる祭りの日　何より一番の　幸せな日がやってくる

Shanaia Jane Bual（12歳・フィリピン）

『地球歳時記』プレゼントのお知らせ

このページをご覧の方へ、『地球歳時記　Vol.16 スポーツのうた』を抽選で20名様にプレゼントします。
ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ、2021年6月7日（月）（当日消印有効）までに下記へお送りください。
〒140-8588（住所不要）JALブランドコミュニケーション「SKYWARD 5月号 スポーツのうた」係
※ご応募いただいたお客さまの個人情報は、賞品の発送にのみ利用いたします。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

第17回世界こどもハイクコンテスト応募要項

●対象：15歳以下の子ども（就学前の幼児も可）
●応募開始予定：2021年6月1日～（日本大会）2021年10月1日～（世界大会）
●大賞受賞者・入賞者には、賞状と賞品を贈呈し、作品をJAL財団Webサイトに掲載します。
詳しくは右記JAL財団Webサイトにてご確認ください。

第16回世界こどもハイクコンテスト 台湾／北部地区大会授賞式→

今回のテーマに該当する目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、全国連加盟国（193カ国）により「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。